

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器を用いた授業の導入の工夫により、学習に興味をもって取り組む児童の様子がどの学年でも見られた。

(2) 課題

- ・朝の時間や算数補習の時間を使って、タブレットドリルを用いた問題演習を行ってきたが、アプリケーションの中に遊び要素が多く含まれていて、そっちに興味をもち本来の学習に集中しきれない児童がいた。十分に行えない面があった。令和7年度は、別のアプリケーションを用いて問題演習を行わせて、基礎的な力を着実に身に付けさせていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全国の平均値を 2.9 ㊦上回った。		
第5学年	全国の平均値を 1.9 ㊦上回った。	全国の平均値を 3.0 ㊦上回った。 (第4学年時)	
第6学年	全国の平均値を 1.5 ㊦上回った。	全国の平均値を 2.0 ㊦上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を 1.5 ㊦上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第4学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を 5.8 ㊦上回った。内容別に見ると、25問中 21 問で目標値を上回り、それ以外の問題でも、ほぼ目標値と正答率が変わらなかった。基本的な知識・技能がよく身に付いていると言える。	目標値を 8.8 ㊦上回った。内容別に見ると、7問中 7 問すべてで目標値を上回り、さらに全ての設問で 5%以上も上回っていた。思考・判断・表現がよく身に付いていると言える。

② 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を 4.8 ㊦上回った。内容別に見ると、23問中 18 問で正答率が目標値を上回った。一方で残り 5 問中、「角の大きさ」については、正答率が 9.5%、「いろいろな形」については 20.5% 下回っていて、課題があることが分かった。	目標値を 10.1 ㊦上回った。内容別に見ると、9問中 8 問で正答率が目標値を上回った。残りの 1 問も目標値とほぼ変わらなかった。10%以上上回っている設問も 5 問あり、思考・判断・表現がよく身に付いていると言える。

③ 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を 1.4 ㊦上回った。内容別に見ると、19問中 約半分の 10 問で正答率が目標値を上回った。一方 9 問は下回り、「割合」は 5%以上下回っていて、課題のある内容があることも分かった。	目標値を 2.1 ㊦上回った。内容別に見ると、13問中 7 問で正答率が目標値を上回った。一方で、6 問は下回り、「最大公約数」「立体と体積」は 5%以上下回っていて、課題のある内容があることも分かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットドリルが使用できなくなった。その代わり、100マス計算のたし算、ひき算プリントを児童一人一人のペースに合わせて繰り返し取り組ませることで、基礎的な力を身に付けさせていく。	文章題の立式をするために、半具体物の活用や図をかくことなどでイメージしやすくさせる。長さや水のかさといった測定の領域でも具体物を使った授業に努める。	特に授業単元の導入において、電子黒板で場面絵や挿絵を見せたり、ICT 機器の操作や動画機能を活用したりして、児童が興味をもって楽しく取り組める授業づくりを行う。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年になると、「小数」や「わり算」の内容の正答率が目標値を下回る傾向にあることから、授業の最後に、理解の進んでいる児童にタブレット内のドリルパーク（電子プリント）を行ったり、朝学習の時間に行ったりして、基礎的な力を確実に身に付けさせていくようにする。	「思考・判断・表現」が、他の観点に比べて正答率が目標値よりも高かったのは、どの習熟度別クラスでも、ノートやタブレットを用いて、しっかりと考えさせる授業を進めてきたからであると考えられる。今後も引き続けて行っていく。	3，4年生共に、授業に意欲的な児童が多い。今後も ICT 機器の操作や電子教科書の画像や動画機能を活用して、児童が興味をもって取り組める授業作りを行う。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今回「小数のかけ算・わり算」「公約数」など、幅広く基本的な設問の正答率が低かった。 学習の単元終わりに、進度の早い児童に、タブレットのドリルパーク（電子プリント）を繰り返し行わせ、基礎的な力を確実に身に付けさせていくようにする。	今後も、ノートやタブレットを用いて、しっかりと考えさせ、特に文章問題においては、題意の読み取りを確認しながら指導を行い、思考・判断・表現力を養う。 「角の大きさ」「作図」に課題があったことから、習熟度別少人数指導のよさを生かして、一人一人の様子を見て回りながら、三角定規や分度器の使い方など、児童の実態を把握して個別指導を行っていく。	ICT 機器の操作や電子教科書の画像や動画機能を活用して、特に授業の導入において児童が興味をもって取り組める授業作りを行う。 引き続き、ICT 機器を用いて一人一人の児童が自分に合ったペースで学習を行えるようにする。

4 重点指導事項

○タブレットのドリルパーク（電子プリント）を用いて、基本的な計算問題演習を繰り返し、基礎的な知識・技能の定着を図る。

（知識・技能）

○一人一人の様子を見て回りながら、作図を中心とした算数教材を使った操作や、具体物操作に力を入れて指導していく。

（思考・判断・表現）

○ICT 機器を用いて、身近な場面を取り入れた導入の工夫を行い、主体的に学習に取り組む態度を引き出す。

（主体的に学習に取り組む態度）